教 科 用 図 書 採 択 参 考 資 料 綴 り

教 科 名 美 術

調 査 研 究 報 告 書

(小委員会名：美術)

1 調査研究の経過・内容	<p>☐ 6月27日(木) 第1回教科用図書調査委員会及び美術小委員会 ・小委員会員の確認・調査研究日程の確認並びに内容・役割分担の確定</p> <p>☐ 6月27日(木)～7月15日(月) 各自、各教科書についての調査・研究</p> <p>☐ 7月16日(火) ・各教科書の内容・構成・使用上の配慮事項等に関する意見交換 (Eメールによる)</p> <p>☐ 7月16日(金)～7月25日(金) ・意見交流を基に個別に再検討・精査 ・意見集約と報告書作成・確認 (Eメールによる)</p> <p>☐ 8月8日(火) 第2回教科用図書調査委員会にて報告</p> <p>※協議内容は別紙(様式4)</p>
2 調査研究の具体的資料	<p>1 教科書編修趣意書</p> <p>2 採択参考資料</p>
3 少数意見等	

観点 番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	9・開隆堂	第1学年 第2学年 第3学年	美術・009-72 美術・009-82	中学美術1 中学美術2・3
取扱内容 〔学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等〕、 内容の構成・排列	<p>○〔知識及び技能〕の内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～身近な人の人柄などを、特徴を捉えて描く活動や、人や動物の動きや特徴をさまざまな材料の特性を理解し対象のイメージをとらえる活動。またそれを行うために必要な道具の使い方の基本を学ぶ活動</p> <p>第2・3学年～自分自身の姿や内面と向き合い、表現方法を工夫して描いたりつくったりする活動や、自分が思い描いたイメージをもとに、抽象的な形をつくる活動</p> <p>○〔思考力・判断力・表現力〕の内容については、目標が達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～自由に線を引いて生まれる形からイメージを広げて描く活動や、身近なものから発見したよさをもとに、模様デザインを考える活動</p> <p>第2・3学年～身近な生活の場面や課題をもとに、活用できるピクトグラムをデザインする活動や、使う人が快適に過ごすことができるような空間を設計する活動</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に関する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～「スケッチブックから広がる」の題材では、身の周りにあるものや大切にしているものを絵に表す自分事としてとらえやすい主体的な活動 鑑賞活動では作者の考えも含め、全ての人の見方や感じ方が異なることが書かれ、それぞれの解釈を伝え合うことの大切さ、自分なりの根拠を意味付ける活動</p> <p>第2・3学年～「イメージを形にして」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、自分の思いや材料などをもとに表現方法について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>○内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年で、身近な人物の特徴を捉えて描く活動、第2・3学年で、自分自身の姿や内面と向き合い、表現方法を工夫して描く活動を取り扱うなど、3学年を通じて系統的・発展的に学習できるような工夫 美術科の学習活動を通じて地域や社会と関わり合い、貢献できる学習展開が可能な題材を設定しており、地域や社会の一員としての自覚と公共の精神、積極的に社会と関わろうとする態度を養えるような構成の工夫</p>			
使用上の配慮等	<p>○地域の焼き物を知り、よさや美しさを考える活動（第1学年）や、木の作品を鑑賞して、特徴や魅力を味わう活動（第2・3学年）を通して、使う目的や用途に応じた工芸品の役割や働きについて見方を広げるなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○各題材に「学習の目標」を提示するとともに、「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」といったそれぞれの活動で身につけられる力を示したり（全学年）、歴史的な美術作品や文化の解説、基礎的な学習の方法を紹介した「学びの資料」を掲載したりする（全学年）など、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○教科書が1冊になっているため、地域の実態（気候や地域の行事など）や学校の実態にあわせて横断的に学習を行うことができる。また、その土地の工芸や文化の内容も多いため、発展的な学習ができる。</p> <p>○最初の見開きページに1年間の学習活動の様子が掲載され、学習の見通しが持ちやすい配慮がされている。</p> <p>○「作者のことば」やアイデアスケッチなどを掲載し、作品がどのような発想・構想のもとに生まれたのかなどについて、生徒が興味・関心をもてるような配慮が見られる。</p> <p>○使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒が学習しやすいよう、各題材の内容ごとに色で示している ・用具の安全な使い方や配慮すべき内容についてマークを示している ・1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。 			

その他

※ 小学校用教科書目録（令和6年度使用 文部科学省）による
○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。
○原寸で掲載している作品が多数ある。

観 点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
取 扱 内 容 〔学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 、 各 学 年 の 目 標 、 内 容 等〕 、 内 容 の 構 成 ・ 排 列	38・光村	第1学年 第2・3学年	美術・038-72 美術・038-73 美術・038-82	美術1 美術1資料 美術2・3
	<p>○〔知識及び技能〕の内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～身の回りにある描きたいものを、画材を工夫して描く活動や、自然物の美しさを、量感や混色などを捉えてつくる活動</p> <p>第2・3学年～心に残る風景を、色使いや表現方法を工夫して描く活動や、日本の絵画を、5つのキーワードを手がかりにして作品を見る活動</p> <p>多くの題材において生徒作品が多数掲載されており、生徒の思考が多く組み込まれ、知識の実感を伴う理解や活用、創造的に表す技能の習得につながるような活動</p> <p>○〔思考力・判断力・表現力〕の内容については、目標が達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～日用品を飾るための文様を使う場面などを考えてデザインする活動や、「火焰型土器」の形や文様などに着目して考え、見方や感じ方を広げる活動</p> <p>「印象に残るロゴマーク」では、美術館や博物館のロゴマークがそれぞれ何をもとにデザインされたものなのか、などのクイズ形式であり、対話が深まることが予測される活動</p> <p>第2・3学年～使う人の立場に立ったデザインと、その役割や働きについて考える活動や、空間を演出するあかりを、生活との関わりから考えてつくる活動</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に関する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～その人らしさを、さまざまな表情やしぐさなどを探って描く活動や、見た人が驚くような写真を、アングルや位置などを工夫して撮影する活動</p> <p>第2・3学年～目の錯覚を使った不思議な空間を、仲間とともにつくる活動や、地域の春夏秋冬のイメージを話し合い、菓子のパッケージをデザインする活動</p> <p>○内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年で、伝えたい内容を表すために文字をデザインする活動、第2・3学年で、絵や写真、文字などを組み合わせて伝えたいメッセージをデザインする活動を取り扱うなど、3学年を通じて系統的・発展的に学習できるような工夫されている。また、学校や地域の実態に応じて取り扱う内容が選択できるように構成発展的に学習できるような工夫がなされている。</p>			

<p>使用上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○暮らしの中にある焼き物の形や装飾のよさを考える活動（第1学年）や、さまざまなカップの形や材料、質感などを比較して特徴を話し合う活動（第2・3学年）を通して、使う場面や目的に応じたデザインの役割や働きについて見方を広げるとともに、生活の中にあるデザインされたものや工芸品を紹介したオリエンテーション資料を掲載する（全学年）など、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○1年資料には〔共通事項〕や技能に関わる資料、2・3年の「学習を支える資料」には美術史に関わる資料などが掲載され、また、資料へのリンクが示されるなど、生徒が知識及び技能を習得・活用しやすいような構成の工夫 ○1年では幼児教育や図画工作科とのつながり、2・3年では身につけた資質や能力をさらに深め、歴史や社会との関係に視野を広げるなど、内容の系統性や学年の発達段階に配慮した構成の工夫 ○全学年の題材の冒頭で、生徒に身に付けさせたい力をマークや囲みで示したり、全学年の題材の随所で、学習のポイントを示したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○使用上の便宜については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・すべての題材に「表現」「鑑賞」のアイコンを入れ、学びの流れがひと目でわかるようにしている（全学年） ・各題材のページ下にマークを入れ、「SDGs との関連」や「道徳教育との関連」といった今日的課題との関連を示している（全学年） ・1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、「書き込みツール」や技法動画、作家や作品の解説動画などを活用できるようにしている（全学年）
<p>その他</p>	<p>※ 小学校用教科書目録（令和6年度使用 文部科学省）による</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○北海道にゆかりのある作品を多数掲載している。また、北海道の生徒作品も多く掲載している。

観点 番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
取扱内容 (学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等)、 内容の構成・排列	116・日文	第1学年 第2・3学年	美術・116-72 美術・116-83 美術・116-84	中学美術1 美術との出会い 中学美術2・3上 学びの実感と深まり 中学美術2・3下 学びの探求と未来
	<p>○〔知識及び技能〕の内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～身近にある描きたいものを、色使いや画材を工夫して描く活動や、身近なものの特徴を、形や色彩、質感などを捉えてつくる活動</p> <p>第2・3学年～心の中に広がる現実ではありえない世界を、ものの組み合わせや構図、色彩を工夫して描く活動や、人の動きから感じ取ったイメージを、材料の特性を生かしてつくる活動</p> <p>○〔思考力・判断力・表現力〕の内容については、目標が達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～イメージや意味がわかりやすく伝わるように文字をデザインする活動や、焼き物のよさや使う人の気持ちなどをもとに、使いやすさを考えてつくる活動</p> <p>第2・3学年～伝えたい内容や場面から伝達の効果を考えてポスターをデザインする活動や、商品のパッケージを、手に取る人や贈る人の気持ちを想像しながらつくる活動</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に関する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年 ～<鑑賞の入り口>が設けられ、題材ごとの作品から問いを設定し、その人の人柄や心情を感じ取ったり、版画ならではの表現の特徴やよさに気づいたり、材料の特徴を生かしながら生き物を発想したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>「文字が生み出すイメージ」の題材における、手描きの文字だけではなく ICT 機器を用いて学習する主体的・対話的で深い学びとなるような活動</p> <p>第2・3学年～<鑑賞の入り口>において、題材ごとの作品から問いを設定し、視点の変化による印象のちがいを感じ取ったり、墨ならではの表現の特徴やよさに気づいたり、表現方法から作者の訴えたいことを想像したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動や、{魅力を伝えるパッケージ}における、グループ活動からの対話に至る、より主体的で深い学びとなる活動</p> <p>○内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年で、墨の濃淡や筆の線の勢いなどをもとに水墨画を描く活動、第2・3学年で、濃淡や線などの効果を活かして、奥行きや躍動感を表す活動を取り扱うなど、3学年を通じて系統的・発展的に学習できるような工夫や、表現のヒントや鑑賞の入り口、造形の視点など、生徒が自ら考え主題を生み出す工夫</p>			

<p>使用上の配慮等</p>	<p>○題材の分類は「表現」および「鑑賞」領域のもと、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の分野で構成され、それぞれの分野で生徒の発達に十分配慮した材料や用具が取り扱われている。</p> <p>○思考のプロセスが見えるアイデアスケッチを掲載しており、生徒は教科書に載っているアイデアスケッチからイメージを広げ、意欲的な学習につながる事が予想される。</p> <p>○暮らしの中にある焼き物の形や色彩のよさを考える活動（第1学年）や、さまざまな材料を比較しながら特徴を話し合う活動（第2・3学年）を通して、使う場面や目的に応じた工芸品の役割や働きについて見方を広げるとともに木や粘土の基礎・基本となる特性や技法の資料を掲載する（1学年）など生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○すべての題材において、＜鑑賞の入り口＞＜造形的な視点＞や「学びの目標」、教科書の使い方を共有したり（全学年）、「作者の言葉」で作家や生徒の作品に対する思いを紹介したり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。</p> <p>○使用上の便宜については次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3分冊で発行することで、中学校3年間という生徒の発達段階に配慮し、系統立てた内容で題材を構成している。 ・すべての題材に「表現」「鑑賞」のアイコンを入れ、学びの内容がひと目でわかるようにしている（全学年） ・「道徳との関連」マークと内容項目を掲載し、題材と道徳教育との関連を示したり、内容と関連する「SDGs」のゴールを示したりしている（全学年） ・ICTを活用して学習を進められるように、「学びのはじめに」「技法を見よう」などの二次元コードを掲載することで、学習効果をより高められるようにしている（全学年）
<p>その他</p>	<p>※小学校用教科書目録（令和6年度使用 文部科学省）による</p> <p>○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p> <p>○映像資料が豊富である</p>

番号	協議題	協議・調査内容
1	<p>子どもが学ぶことに興味や関心を持ち、粘り強く学習活動に取り組む「主体的な学び」に関する配慮について</p>	<p>「開隆堂出版株式会社」では、親しみやすいキャラクターの問いかけで学習のポイントを示し、生徒の興味・関心を高める題材を開発していた。巻末の「学びの資料」で、多岐にわたる内容を取り上げたりすることで、実感的な理解ができるように配慮がなされている。また、生徒一人一人の個性や考え方に着目し、表現活動でも「そのひとらしさ」を大切にしている。鑑賞活動では作者の考えも含め、全ての人の見方や感じ方が異なることが書かれている。それぞれの解釈を伝え合うことの大切さ、自分なりの根拠を意味付ける活動が取り上げられている。</p> <p>「光村図書出版株式会社」では、全ての題材において「表現」と「鑑賞」の活動がアイコンで示され、学びの流れが明確である。表現の活動における中学生の制作過程を詳しく掲載したり、別冊「資料」で、材料と用具、〔共通事項〕に関わる内容を充実させたりすることで、生徒が、どのような作品をつくりたいかを主体的に考えられるように配慮がなされている。また、発想の手がかりをQRコードや作品例などで多く提示しており、どのように表現したら良いかわからない生徒への配慮が多くされている。</p> <p>「日本文教出版株式会社」では、＜鑑賞の入り口＞＜造形的な視点＞において問いを設けたり、題材ページや資料ページに掲載されている教科書QRコンテンツを活用したりすることで、生徒の学習意欲を高め、さらに学びを深められるように配慮がなされている。また、題材名が小学校図工の教科書のように面白いものになっており、興味をひきやすい。立体造形の活動では粘土や針金、木材（落ち葉や石）や鋳造など学校や地域の実態に応じて取り扱う内容が選択できるように構成され、発展的に学習できるような工夫がなされている。</p>
2	<p>北海道とかかわりのある内容を取り上げている教材数について</p>	<p>「開隆堂出版株式会社」は地域の特色ある美術や美術文化を取り入れているが、北海道との関わりのある教材は少なく4点。 (1年P. 39・42・61 / 2・3年P. 114)</p> <p>「光村図書出版株式会社」は12点 (1年P. 49・50・53・62・63・67 / 2・3年P. 39・46・88・93・101・103)</p> <p>「日本文教出版株式会社」は14点 (1年P. 22・38・40・47・73 / 2・3年上P. 3・11・42・52 / 2・3年下P. 20・39・40・48・57)</p>

3	カリキュラム・マネジメントに資するように他教科や領域との関連を意識した編集について	<p>3社ともカリキュラムマネジメントに資するように他教科や領域と関連を意識した編集がなされている。</p> <p>「開隆堂出版株式会社」では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、全学年の教科書において教科横断的な視点で学習を深められるような編集になっている。</p> <p>道徳との関連を意識したページも多く、修学旅行などの特別活動に関連づけられるような工夫も見られる。二次元コードによる多様な映像資料の提示を工夫し、カリキュラム・マネジメントへの配慮があった。また、第2、3学年の教科書が1冊になっているので、地域の実態（気候や地域の行事など）や学校の実態にあわせて横断的に学習を行うことができる。</p> <p>「光村図書出版株式会社」では、他教科の学習と関連がある題材には、「〇〇科とのつながり」というミニコラムを紹介し、他教科の学びを意識しながら表現や鑑賞の活動が行えるよう、配慮がなされている。また、QRコードからの映像教材が多く、他教科等の学習で活用できるものが多い。</p> <p>「日本文教出版株式会社」では、他教科での学習を生かしたり、関連づけたりした題材や事例を掲載している。教科横断的な学習ができるよう編集され、学習時期も他教科とあわせている印象がある。総合的な学習の時間、特別活動と美術科の活動を関連させた事例の掲載も豊富である。地域の工芸や文化の内容も多いため、教科横断的な学習をしやすい。</p>
---	---	---

※行が足りない場合は増やしてください。

※1つの教科・領域で2～5の協議題、協議・調査内容を記載してください。